重要文化財に指定された建物

パレス

御常御殿は1924（大正13）年、久邇宮家の日常生活の場として建てられました。建築面積420㎡、入母屋造一部切妻造。設計は森山松之助、施工は横溝豊吉。台湾の様式を加えた和風皇室建築です。

小食堂は旧久邇宮邸創建当時の建物で、1918（大正7）年竣工、建築面積291㎡、入母屋造。宮家造営課の設計とされています。大正期の皇室建築を偲ばせる壮麗な室内装飾を御覧いただけます。

クニハウス

車寄は本館の表玄関で1918（大正7）年竣工。火災により主要部分を焼失しましたが、創建当時より位置の変更は無い建造物です。久邇宮家の長女良子女王（後の香淳皇后）は皇太子殿下（後の昭和天皇）との御成婚の折、この車寄から宮中へ御出立されました。

正門

正門は桟瓦葺の薬医門で左右に袖塀を延ばしています。1918（大正7）年竣工。
聖心女子大学の正門として現在も利用されています。

重要文化財

旧久邇宮邸

聖心女子大学

旧久邇宮邸は和風基調で建築された宮家本邸の唯一の現存例であり、皇室建築の系譜を考える上で、「意匠的に優秀なもの」「学術的価値の高いもの」として、2017（平成29）年に国の重要文化財に指定されました。
聖心女子大学でパレスと呼んでいる「御常御殿」と「小食堂」に加え「正門」、さらに附（つけたり）として「車寄」が指定の対象となりました。

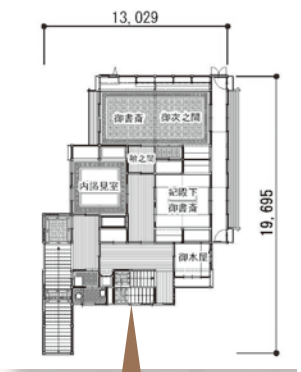
聖心女子大学
University of the Sacred Heart, Tokyo

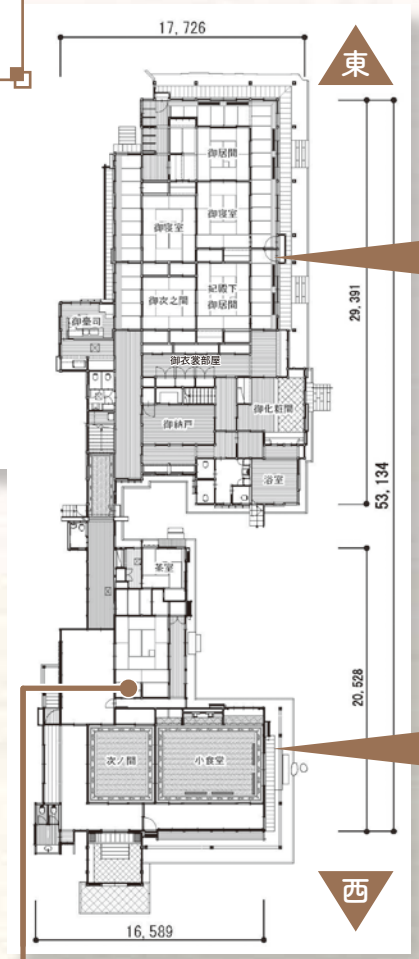
〒150-8938　東京都渋谷区広尾4-3-1
TEL .03-3407-5811（代表）
http://www.u-sacred-heart.ac.jp

旧久邇宮邸御常御殿・小食堂
～パレス～

▲内謁見室火灯窓

▲内謁見室台湾風の天井





御常御殿 2階

2階は和洋が混在する中に、設計者森山松之助による台湾風の要素が盛り込まれています。台湾材も多く用いられ、南面の廊下のケヤキと内謁見室の床板のクスノキは往時を偲ばせるものです。東側の御書斎と御次之間を連続させた御部屋は寄木張の床が美しく、書棚やレコードキャビネットとして使われたという棚が残っています。

▲御常御殿2階殿下の御書斎

◀香淳皇后が使われたという建具

御常御殿 1階

和風意匠でまとめられた1階は東側に主室5部屋があり、畳廊下がその南・北・東に廻らされています。床の間や違棚などの書院造の装飾が多く施され、間越欄間や釘隠しなど伝統的な日本の室内装飾と、皇室建築の特徴である高い天井が御部屋の格調を高めています。
パレスには日本美術院の画家43名が描いた天井画が78点残されており、そのうち60点が邦彦殿下と妃殿下の御寝室の格天井にはめ込まれています。（実物は東京国立博物館に保管）
主室の西側には御衣裳部屋、御化粧間、浴室が設けられています。曳家移築後、学生が課外活動などで利用しやすいように改装されていますが、かつての名残を随所に見ることができます。

小食堂と御次之間

小食堂は寄木張の床で、肘木に支えられた折上格天井には御常御殿御寝室よりひとまわり大きな天井画が18点飾られています。東側壁面には洋風の大理石のマントルピースを中心に右に唐風の火灯窓、左に和風の違棚と天袋・地袋が配されています。大正期の皇室建築を偲ばせる壮麗な室内装飾から、大学では長く謁見之間と呼んでいました。
御次の間には、南と東の襖にわたって見事な柿が描かれています。

▲小食堂東側壁面

旧久邇宮邸と聖心女子大学のあゆみ

江戸時代後半	本学敷地は下総国佐倉藩堀田家下屋敷地
1875（明治8）年	久邇宮家創設
1916（大正5）年	久邇宮家2代邦彦王、御料地であった現在の広尾に屋敷地を得る
1918（大正7）年	久邇宮邸小食堂、車寄を含む本館竣工
1918（大正7）年	同 正門竣工
1919（大正8）年	同 西洋館部分を焼失
1924（大正13）年	同 御常御殿竣工（西洋館跡地）
1945（昭和20）年	太平洋戦争終戦後久邇宮家の皇室降下により、敷地は国の管理、建物は映画会社大映の所有に
1947（昭和22）年	聖心女子大学が建物を入手
1948（昭和23）～1954（昭和29）年	聖心女子大学が国の管理下にあった敷地を数年かけて購入
1948（昭和23）年	聖心女子大学開学
1949（昭和24）年	当初は現在の1号館付近にあった御常御殿と小食堂を現在の場所に曳家移築
1986（昭和61）年	パレスを創建時の御殿の姿に修復再現
1998（平成10）年	本学3号館建設時、クニハウスにブリットルームとクニギャラリー設置
2000（平成12）年	御常御殿が登録有形文化財に指定
2001（平成13）年	パレス天井画を東京国立博物館へ預託
2016（平成28）年	パレス、クニハウス大規模修復及び耐震補強工事完了
2017（平成29）年	小食堂、御常御殿と正門、附として車寄が国の重要文化財に指定

見どころを逃さず御堪能ください

- 大正期の俊英画家によって描かれた天井画、杉戸絵、襖絵
- 皇室建築を偲ばせる菊をモチーフとした可愛らしい釘隠しや襖の引手
- 御部屋ごとに違う欄間の伝統的かつ精緻な彫り物や細工
- 座敷飾りや床板に使用されている銘木
- 様々な形の火灯窓（花頭窓）
- 創建当時のまま残るガラス窓

▲小食堂折上格天井

▲御常御殿2階南面廊下